

7 . 河川空間の利用状況

7-1 河川敷の利用

斐伊川の水面利用（舟運）は、宍道湖流入点より木次町までは主に貨物輸送に利用されていたが、鉄道や道路の整備に伴って徐々に衰えはじめ、大正5年の宍道～木次間の鉄道開通により、ほとんど見られなくなった。宍道湖から下流域水道に至る区間においては、重要港湾境港をはじめ、地方港湾の松江港、安来港、米子港および漁港等が多数あり、漁船をはじめ貨物船の定期・不定期便の航行が盛んである。

また、斐伊川の河川利用については、上・中流域では豊かな自然の中での散策や魚釣り、水遊び等の自然利用が主体であり、山間部を抜け中流部に下ると、出雲市街地を中心として高水敷の一部が整備され、運動広場、公園、ゴルフ場等の施設的使用が多い。宍道湖および中海では、その広大な水面を利用したヨット、ボートセイリング、レガッタ、釣り等の水面利用が特徴である。また、湖岸の散策やバードウォッチング等自然環境を楽しむ人も多い。

さらに、斐伊川と関連の深い祭も数多く行われており、代表的なものを表7-1に示す。

表7-1 斐伊川に關係の深い祭り

出典：出雲工事事務所作成

名 称	市町村名	場 所	備 考
いずもオロチまつり	出雲市	斐伊川河川敷	花火大会等
みなと祭	境港市	境水道	花火大会等
平田七夕祭り	平田市	一部平田船川	夜・花火大会
ホーランエンヤ（船神事）	松江市	宍道湖・大橋川	
松江水郷際	〃	宍道湖沿岸	花火大会
恵比須まつり	木次町		
木次桜まつり	〃	斐伊川河川公園	
七福神祭り	〃	斐伊川河川公園	
蓮華祭	宍道町	宍道湖沿岸	花火大会
七福神祭り	玉湯町	支川玉湯川	
おろちの父祭り	横田町	一部斐伊川	



ホーランエンヤ祭

出典：松江市役所所有 資料



水辺利用状況(中海)

出典：出雲工事事務所所有 資料



高水敷の利用「桜まつり」(木次町)

出典：出雲工事事務所所有 資料



堤防で遊ぶ子供たち

出典：出雲工事事務所所有 資料



宍道湖でのウィンドサーフィン

出典：出雲工事事務所所有 資料

7-2 河川の利用状況

平成9年度に実施した「河川水辺の国勢調査 河川空間利用実態調査」によれば、斐伊川水系の年間河川空間利用者総数（推定）は約84.1万人である。沿江市町村人口からみた年間平均利用回数は、約1.5回となっている。

利用形態別では、釣りが46%と最も多く、次いで散策等が41%と続き、両者で87%を占める。水遊びは9%、スポーツは4%にすぎない。利用場所別には、水際が49%と最も多く、次いで堤防が34%で、両者で83%となっている。

平成9年度は平成5年度と比べて、夏季休日と冬季休日が減少した他は、総利用者数の季節変動は、ほぼ同じである。利用形態別にみると四季を通じて釣りの利用者が増えている。このように、斐伊川は、地方都市周辺を流下し、中海・宍道湖の2つの大湖の特性を活かした、釣り、水上スポーツ、また全流域を通して散策等が活発に行われている。

平成9年度に実施した「河川水辺の国勢調査河川空間利用実態調査」の結果を表7-2に示す。

平成9年度 「河川水辺の国勢調査 河川空間利用実態調査」 定 点 観 測 場 所	境水道・中海ブロック	うさぎ山公園
		中浦水門
	大橋川・宍道湖ブロック	千鳥南公園
		斐伊川河口
	斐伊川ブロック	神立河川公園
		西代橋左岸

表7-2 年間河川空間利用状況

出典：国土交通省河川局

H9年度 河川水辺の国勢調査 河川空間利用実態調査

区分	項目	年間推計値（千人）		利用状況の割合	
		平成5年度	平成9年度	平成5年度	平成9年度
利用形態別	スポーツ	54	36		
	釣り	172	386		
	水遊び	108	75		
	散策等	546	344		
	合計	880	841		
利用場所別	水面	59	50		
	水際	221	410		
	高水敷	107	91		
	堤防	493	290		
	合計	880	841		